

全国産業教育フェア三重大会参加

実施期日 平成 27 年 10 月 31 日・11 月 1 日

平成 27 年 11 月 6 日付 北鹿新聞掲載

「見せる工夫、笑顔参考に」

専門高校生徒らの学習成果発表の祭典「全国産業教育フェア」が2年後に本県で開催されるのを前に、大館高校（今泉悟校長）の教員と生徒計3人が1日まで2日間、第25回フェア三重大会（三重県伊勢市など）に視察や経験を目的に参加した。

フェアは家庭、福祉、農業、工業などの展示やコンテスト、体験コーナーなど多彩に展開し、例年多くの高校生らでにぎわう。第25回は全国の約500校が参加した。

本県では商業、家庭、工業などの学校ごとに持ち回りで参加しており、大館は3年ぶり。来年は次年度会場県として石川大会に参加するほか、プレ大会（10月・秋田市）を

全国産業教育フェア 視察兼ね大館高が参加 2年後に本県開催

実施。29年度は本県開催を控える。大館高は来年以降、統合後の「大館桂桜高校」生活科学科として参加予定。

2年後を見据え、1年の高橋唯さんと渡邊葵さん、同科の嵯峨紀子教諭が参加。2年生が制作したエダマメをモチーフにしたドレス、きりたんぽなどを描いたパッチワーク、学校や大館市を紹介するパネルの展示を行った。高校生30人などが討論する「さんフェアみえ白熱トーク」にも参加した。

参考になったのは高校生によるファッションショー。2人は「歩き方やパフォーマンス、音楽や照明を生かした演出が徹底されていた」と振り返った。同校も大館圏域産業

10 秋田県立大館高等学校



祭などで披露しているため、生活実践コースで被服を学ん参考や励みになったという。ぼつとしていた渡邊さんは「技術や見せ方、ファッションに関する学習にみっちり取り組みたい」と意欲をのぞかせた。福祉コース志望の高橋さんは「高校生の笑顔や相手のことを考えた積極的行動を参考に、来年以降に生かしたい」と話した。

嵯峨教諭は2年後の秋田大会を見据え「展示やファッションショーで秋田らしさを取り入れPRしたい。何より生徒の主體的な取り組みが重要。視察を通して生徒たちへの意識づけもできた」と振り返った。

第25回フェアの大館高ブースで記念撮影する渡邊さん（左）、高橋さん（大館高提供）

作品出品、討論も